

F A B について

< 前頭葉機能検査 F A B (A frontal assessment battery at bedside) >

前頭前野機能を簡便に評価するための面接形式の検査。満点は 18 点。

6 項目の検査項目からなっている。ほぼ 8 歳以上になると健常人では満点がとれる。

課題内容

概念化課題；「バナナ」と「リンゴ」はどこが似ているか、知的柔軟性課題；「か」から始まる言葉をあげよ、行動プログラム課題；ルリアの「手 - 手首 掌」運動、反応の選択課題、GO/NO-GO 課題、自主性の課題の 6 課題からなる。

文献

Dubios B, et al. The FAB. Neurology 2000;55:1621-1626

< FAB についての補足のご説明 >

FAB テストは、東北大学の川島教授が上記論文(Dubios B, et al. The FAB. Neurology 2000;55:1621-1626) から日本語に訳され、「前頭前野機能発達・改善システムの開発研究」の共同研究班で使用しているものです。(社会技術研究推進事業 平成 13 年度採択 研究領域「脳科学と教育」) これまでの研究結果は「社会技術研究フォーラム」で 3 回発表されました。また、現在徐々に各地の研究機関・施設で採用され、さらなるデータの蓄積が行われております。

FAB テストを採用した最大の理由は、特に高齢者の前頭葉機能の推移を見る、他の良いメジャーが見つからなかったためです。特に高齢者の前頭葉機能の推移を見る、とても鋭敏なメジャーとして機能しております。是非お試しになってください。(川島先生のホームページもご参照ください)

< 川島先生 HP URL <http://www.idac.tohoku.ac.jp/dep/fm/index.html> >

< FAB 検査の適用範囲について >

共同研究班では、独自に、高齢者のほか 400 名の健常児及び障害児の追跡調査を 2 年間にわたって実施いたしました。その結果から致しまして、日本におきましても、健常児童の場合ほぼ 2 歳前後から得点が可能になり、8 歳を超えると満点がとれております。ほぼ 2 歳から非常にきれいな年齢との相関性(高い年齢依存性) が確認されております。よって、適用範囲は 2 歳程度以上となると考えられます。